

みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.
179

東北森林管理局

特集 今年度の活動を振り返って

「藤里森林生態系保全センター」

「津軽白神森林生態系保全センター」

CONTENTS

■美しい森林づくり

地域と一体となった森林づくりへの取り組み・・・・・・・・[三陸北部森林管理署久慈支署]

■我が署の名所

国の天然記念物「桃洞スギ」・・・・・・・・・・・・・・・・[米代東部森林管理署上小阿仁支署]

特集

今年度の活動を振り返って

藤里森林生態系保全センター

当センターでは、白神山地世界遺産地域（秋田県側）4,344ha及び周辺地域の貴重な森林生態系の適切な保全と利用を図るため、遺産地域の巡視活動や二ホンジカ対策、森林環境教育等の活動に取り組んでいます。

○白神山地世界遺産登録25周年記念事業

平成5年12月に世界自然遺産に登録された白神山地は、秋田県が中心となつて関係市町村や関係機関が多くの記念事業を開催しました。東北森林管理局においては、小島局長から「ミス日本みどりの女神」竹川智世さんを一日局長として任命し、地域の記念行事に参加しました。竹川さんは藤里町が主催した藤里駒ヶ岳の新登山道「権岱新トレイル」の案内役や、「世界遺産ネットワークシンポジウム」でのパネリストや司会を務め、各地域の世界自然遺産の取組みや魅力について話し合いました。



権岱新トレイル



一日局長に任命されました



シンポジウムの様子



みんなで記念写真

○白神山地世界遺産地域の巡視活動

白神山地世界遺産地域を適切に保全するため、入山者の多い箇所を中心に登山者への入山マナーの注意喚起や標識類の状況確認等を実施し、樹木の損傷や高山植物の盗掘等の違法行為が行われていないか巡視を行いました。特に核心地域については、粕毛川源流部への巡視を3回行いました。

白神山地世界遺産地域連絡会議主催による合同パトロールについては、7月と9月の2回を予定していましたが、共に雨のため中止となりました。しかしながら、例年以上に巡視員の方々に巡視を実施して頂き、違法行為やマナー違反は確認されませんでした。このように良好な状態で利用されているのもボランティアで熱心に活動されている巡視員の皆様や、関係機関の方々の日頃からの取り組みのお陰です。引き続き来年度もご協力の程よろしくお願ひ致します。



小岳（緩衝地域）



粕毛川源流部（核心地域）

○白神山地世界遺産地域巡視員会議

6月2日（土）に、平成30年度第1回白神山地世界遺産地域巡視員会議が八峰町文化交流センターファガスで開催され、巡視員、関係機関の総勢29名が参加し、今年度の事業計画等について説明されました。また、二ホン

ジカ対策として島内計画保全全部長から早池峰山周辺地域での被害状況や対策などについて報告がありました。

12月14日（金）に、第2回目の巡視員会議が八峰町文化交流センターファガスで開催され、巡視員、関係機関の総勢37名が参加し、今年度の事業実績の報告の他、



巡視員からの発言

二ホンジカが目撃情報について報告されました。白神山地周辺での二ホンジカの目撃情報は昨年より減つてはいるものの、緩衝地域の二ツ森登山道で確認されるなど油断の出来ない状況にあること、越冬地を見つけ対策することが有効であること等が話されました。

○森林病虫害の未然防止

白神山地世界遺産地域の緩衝地域である小岳には本州最低標高に生育する貴重なハイマツ群落が見られますが、近年「マツノクロホシハバチ」という蜂の一種によるハイマツの葉の食害が確認されているため、食害調査を毎年継続して実施しています。今年は、幸いにも



ハイマツの食害を確認する職員

幼虫が見当たらず食害も確認されませんでした。本種が大発生すると最悪な場合はハイマツを枯らしてしまうことも考えられるため、今後も継続して被害状況の

確認を行っています。

○ニホンジカ対策

白神山地世界遺産地域及び周辺地域における中・大型哺乳類のモニタリング調査として、関係機関と連携し141台（昨年度134台）のセンサーカメラを設置しました。その内、当センターでは4月27日から秋田県側に30台設置し、降雪前の11月26日まで定期的にデータ回収を行ったところ、合計8頭（昨年度25頭）のニホンジカが撮影されました。

また、一昨年から取り組んでいる小型囲いわな1基をシカの餌となる草本類が少ない春期と秋期・初冬までの年2回、昨年度にシカの撮影回数が多かった八峰町の小入川地区に設置し、捕獲に向けた対策を行いました。取り組みの結果については、捕獲には至りませんが、今年度の結果を踏まえつつ、来年度もニホンジカ対策に引き続き取り組んで参ります。



囲いわな設置初日の取材の様子



八峰町小入川林道で撮影されたニホンジカ

○森林環境教育等

6月7日（木）、8日（金）の2日間に渡って、藤里



藤里幼稚園「ぶなの森探検」

幼稚園年長児17名に対して、「ぶなの森探検」を実施しました。

1日目は白神山地世界遺産センターで事前学習を行い、2日目は岳岱自然観察教育林でぶなの森探検を行いました。園児達は、「葉っぱピンコシート」を使い、シートにある葉っぱと同じ

葉っぱを見つけては歓声を上げていました。また、白神のシンボルである「400年ブナ」を間近に観察しその大きさに驚いたり、モリアオガエルやクロサンショウウオの卵、エゾハルゼミに実際に触れたり、オオバクロモジの葉の匂いを確かめたり五感をフルに使って学習し、普段では経験できない「探検」を存分に楽しんでいました。

9月14日（金）、NPO法人あきた白神の森倶楽部が、秋田県立二ツ井高等学校1年生21名に対して、白神プロ



二ツ井高校「自然観察会」

ジエクト活動の一環として植樹活動や自然観察会を行い当センターも協力しました。午前中に行った植樹活動では、スギのコンテナ苗とブナのポット苗を生徒達がディブルや鋏を使い、丁寧に植えました。午後からは、岳岱自然観察教育林で自然観察を行い、白神の森の魅力や堪能し森の役割や保全の大切さについて理解を深めました。

獨協大学経済学部国際環境経済学科2年生26名と3年生19名が、エコリズムを活かした持続可能な農村地域作りと農業を、自然体験やボランティア活動を通じて考え学ぶため、白神山地でゼミ合宿を3泊4日でそれぞれの学年毎に実施しました。

そのゼミ合宿の活動の一環として、8月21日（月）に2年生が木道の修理を、8月24日（金）に3年生がウッドチップ歩道を補修するボランティア活動を岳岱自然観察教育林内で行い、当センター職員が指導役として協力しました。

遊歩道は、学生達が一生懸命整備してくれたお陰で、大変歩きやすくなりました。

最後に学生から、「白神山地でのボランティア活動の貴重な体験をありがとうございました。」とお礼の言葉を頂きました。



木道修理班（獨協大2年生）



ウッドチップ歩道班（獨協大3年生）

9月6日（木）に、当センター研修棟で大仙市内小友



大仙市財産区研修会

財産区・大川西根財産区研修会を行いました。研修会では12名の方が世界遺産白神山地の概要について学習しました。当センターの取り組みも紹介され、「ニホンジカの問題は農業被害も心配ですね」と財産区ならではの話題もありました。

○「白神森林講座」

この講座は、公募により選定された一般社団法人 秋田白神コミュニケーションセンターとの共催で実施する自然観察会です。今年度は合計3回実施する予定でしたが、第1回、第2回は残念ながら悪天候等のため中止となりました。

第3回は、3月9日（土）に能代市二ツ井町の七座山麓やきみまち阪で、昨年要望の多かったスノーシューでのトレッキングを行う予定です。参加ご希望の方は、

一般社団法人 秋田白神コミュニケーションセンター
☎0185(800)80220

までお申し込み下さい。応募メ切りは三月一日までです。

今年度の主な活動を紹介しましたが、今後も巡視活動やシカ対策、普及・啓発活動などにより白神山地世界遺産地域の適切な保全管理に努めながら、白神山地の豊かな自然を将来にわたって引き継いでいけるよう、地域の方々と共に取組んで参ります。

津軽白神森林生態系保全センター

当センターは、青森県鮎ヶ沢町に所在し、白神山世界自然遺産地域（青森県側）やその周辺などをフィールドに森林生態系の保全・管理や適切な利用の推進を図るため、巡視活動や自然再生活動、森林教室や林業体験などを通じた森林環境教育に取り組んでいます。

○白神山世界自然遺産地域の保全管理

遺産地域の自然環境を将来にわたり適正に保全・管理していくため、職員による巡視活動を実施しています。

また、当センターが中心となって白神山世界遺産地域連絡会議の構成機関や白神山世界遺産地域巡視員、地元警察、消防署、漁協関係者と共に遺産地域における違法行為の防止や入山マナーの向上等を目的に、7月28日（土）大川・ブナ林散策道・クマガラの森・追良瀬川・白神岳の5コースと8月28日（火）ブナ林散策道・高倉森・



ヤナタキ付近での巡視活動（クマガラの森）

天狗岳・笹内川・白神岳の5コースにおいて合同パトロールを実施しました。1回目の合同パトロールでは、残念ながら大川で焼き火跡及び無断伐採、追良瀬川では焼き火跡が確認されました。今後とも、入山マナーの向上へのご理解とご協力をお願いします。

○試行的なニホンジカ捕獲

白神山周辺でニホンジカの生息域拡大による白神山世界遺産地域の自然植生等への影響が懸念されています。

平成28年の秋から試行的にニホンジカ捕獲用に小型囲いわなを深浦町深浦山国有林に1基設置しています。

ICT技術（情報通信技術）を活用したわなで、おりの中に大型の動物が入るとセンサーが反応し、自動的にゲートが降りると同時に、おりの中に入った動物の写真が自動で職場のパソコンやスマートフォンに送信される仕組みです。

4月25日（水）に報道機関へ公開し5月31日（木）まで、その後9月25日（火）から12月28日（金）まで捕獲に取り組みました。

試行期間中、ニホンジカや他の動物が捕獲されることはありませんでしたが、わなの近くを歩くニホンジカの写真が撮影されています。



ICTを活用した囲いわな



囲いわなの周囲で撮影されたニホンジカ

○中・大型哺乳類のモニタリング調査

世界遺産地域へのニホンジカの入域を排除するとの考え方に立ち、雪解け後、順次センサーカメラを国有林野内に設置し監視を行っています。

5月29日（火）深浦町の国有林内にセンサーカメラを設置し、報道機関に公開しました。今年度は関係機関と調整し遺産地域周辺に141台（当センター担当分は昨年度より2台多い32台）設置し、11月末頃までに中・大型哺乳類のモニタリング調査を行いました。

ニホンジカは、当センターで設置したカメラでは11件12頭撮影されました。なお、本年度小型囲いわなの設置箇所に増設した2台と既設のカメラに11月上旬から11月末に6件6頭が撮影されたことから、当該箇所については、12月以降もセンサーカメラを設置し監視を続け、ニホンジカの移動経路や越冬地に関する参考データの収集を実施しています。



追良瀬山で2頭撮影されたニホンジカ

結果については、白神山地科学委員会等へ情報共有し、今後の対応を検討することになります。来年度についてもセンサーカメラによるモニタリングと生息情報の収集に努めると共に関係機関と連携の上、ニホンジカ対策を進めてまいります。

○自然再生活動

自然再生活動は、白神山地世界遺産地域周辺のスギ人工林を将来、白神山地本来の植生である広葉樹林に戻すことを目的に実施しています。

これらは「白神山地周辺地域自然再生計画」（平成21年3月策定）に基づき活動しており、NPO等の多様な参加主体による百年単位の息の長い取り組みが行われています。

当センターでは自然再生活動に協力を頂ける一般ボランティアを公募し、7月21日（土）と9月15日（土）に好天の中実施することが出来ました。



自然再生活動の様子

参加者には、植栽予定地近隣の広葉樹林からブナやミズナラの稚樹を採取し、スコップを使っての植樹を行うことで頂きました。

その後は、1回目は弘前大学白神自然観察園の散策や津軽ダムパークでの水源かん養機能等について学んでいただきました。2回目は暗門ふな林散策歩道から暗門の滝歩道を散策し、白神山地の林相を堪能して頂きました。

○森林環境教育等

森林散策を通じ白神山地が世界遺産に登録された意義や森林生態系等について一般市民に学んで頂くため、公募による森林教室を2回実施しました。

5月26日（土）に今年度第一回目の森林教室を深浦町と共催で開催しました。当日は、天候に恵まれ、親子を

含む28名の参加による新緑の十二湖を散策しました。10月13日（土）に第二回目の森林教室を西目屋村と共催で開催しました。

当日は、天候に恵まれ、親子を含む20名の参加により、暗門の滝歩道を散策しながら、黄葉が始まったブナをはじめとする広葉樹林から湧き出た綺麗な水に触れ、午後から白神八甲田緑の回廊の中にあ

ります矢立峠の歴史と天然杉等を見ていただく中で、白神山地の生態系等を学んで頂きました。

また、森林での体験を通じて、地元小学生が地域の産業である林業や白神山地世界遺産について理解を深めることを目的に、鱈ヶ沢町内の西海小学校5年生、舞戸小学校4年生の児童に対し、当センターと津軽森林管理署共催で森林教室を毎年実施しています。

9月6日（木）と9月13日（木）の二日間実施しました。両日とも天候に恵まれ、午前中は矢倉山国有林においてノコギリを使っての体験林業（除伐、枝打ち）と北限の天然スギを見学。午後からは、白神の森遊山道（鱈ヶ沢町）で職員の説明を受けながら白神山地ブナ林の散策を楽しみました。

鱈ヶ沢こども園では、未就学児を対象とし、間伐材のプランターに花を植えることにより、自然の大切さを学び自然に親しむ心を学ぶことを目的に、5月10日（木）体験学習を実施しました。

その他、NPO法人、ボランティア団体等と連携・協



十二湖での森林教室



小学生の林業体験

力した「白神山地周辺地域のクリーンアップ作戦」や「白神山地ビジターセンターふれあいデー」への協賛として木工教室の開催、ユネスコの育樹活動への支援・協力を行っていきます。

いずれも白神山地への理解を深め、森林に親しむ機会の提供や木材の利用促進などの普及啓発が行えたものと考えております。

○取り組みの積極的な情報発信

各種取り組みの前にはプレスリリースを積極的に行うと共に、広報誌「白神の絆」を毎月発行し、情報発信に努めています。

また、センターの活動状況をお知らせする、「活動写真展」を白神山地ビジターセンターや青森県総合社会教育センターで実施しております。

今年度も以下の会場で実施しています。

日時 1月16日（水）～2月24日（日）

午前9時～午後7時

場所 青森県総合社会教育センター

1階アートギャラリー [Shasei]

青森県青森市荒川字藤戸119-17

TEL 017-739-1252

その他

入場無料



美しい森林づくり



地域と一体となった 森林づくりへの取り組み

三陸北部森林管理署久慈支署

はじめに

三陸北部森林管理署久慈支署は、岩手県北東部に位置し、久慈・閉伊川森林計画区内の1市2町2村の国有林約2万7千haを管理しています。

管内は、明治21年の開庁以来大きな合併もなく、古くから地域との繋がりが深く森林・林業関係への要請等も数多くあり、地元と一体となった各種会議はもとより、さまざまな取り組みを行っております。

今回は本年度実施した地域と連携した各種取り組みについて紹介します。

1、木の仕事協議会への参加

木の仕事協議会は、若者が木材業界に就業するための支援及び定着に必要な事業を行い、当業界及び当地域の発展に資することを目的に管内林業事業体28社が平成29年3月に設立、久慈支署も公共職業安定所、県北広域振興局並びに地元市町村・高校とともに賛助会員として参加しており、体験林業や新入社員合同研修会での講義等を行いました。



木の仕事協議会記事

2、久慈地方森づくり大会

久慈地方森づくり大会は、これまで県や市町村、森林管理署がそれぞれ行っていた植樹祭等を一本化し、民有林（久慈地方林業振興協議会）と国有林（三陸北部森林管理署久慈支署）が連携して地域の森林づくりの推進を図るため、



150名参加した森づくり大会

平成26年より植樹を基本として毎年行っており、本年度は野田村の村有地にコナラの苗木600本を植樹しました。

3、次世代へつなぐ取り組み

これから時代を担っていく世代に対しては、森林・林業に関心を持ってもらう取り組みとして、管内各市町村の小学生を対象とした森林教室等も県・市町村と連携し



アカマツに興味津々の様子

実施しました。

五月に森林愛護少年団の入団式と併せ、岩手の木でもあるアカマツの観察や森林土壌の実験、六月にも久慈平岳の山開きに併せ管内三つの小学生児童に対し、森を歩きながらのフィールドビンゴや「やってみよう」と題し各ポイントでの課題へのチャレンジなどを実施し、森や木に対して関心を高める取り組みを実施しました。このほかにも管内小中学生が夏休み等に作成した木工作品に対し、久慈地方木材青壮年協議会と連携し、優秀作品に県及び市町村長賞や、支署長賞を授与するなど、木材に触れる機会を増やす取り組み



視察会に集まった森林愛護少年団

も実施しました。

また、久慈市内で純粹に自然に親しむ者100人規模で構成する「くじ・川の会」との各事業地を視察する森林教室は、結成以来30年余り続いており、会員各位から様々な方面にPRして頂いてい



久慈「川の会」による事業地視察（写真は平成26年にカラマツを植樹した第一回森づくり大会会場）

るところです。

今後は、本年度から施行される森林経営管理法や森林環境贈与税等益々地元市町村等との連携が重要になって来ますので、久慈地域における森林・林業施策を積極的に行って参ります。



新庁舎が完成

山形森林管理署最上支署

昭和38年から地域住民に親しまれてきた旧庁舎を平成29年10月に解体し新築工事が進められてきましたが、平成30年12月、待望の新庁舎が完成しました。12月19日に新庁舎披露式を行い、12月25日より新庁舎での業務を開始しています。

新庁舎は木造平屋建てですが、豪雪地域を意識してコンクリート基礎が高く、屋根の形状が片流れで深い軒になっていするため除雪作業にも考慮した広い空間が確保されています。

外壁や内部の腰壁には杉板がふんだんに使われており、事務室は集成材の梁が現されるなど木の温もり溢れる空間に仕上がっています。

特に、執務室と玄関右側に併設した大沢森林事務所にはスギ間伐材で作製した木製机が配置され、よりの木の香りに包まれた執務室となり、来庁者にも評判です。また、障害者専用の駐車スペースや、玄関とロープ・点字ブロック・自動ドア・インターフォン・多目的トイレなどが配備しているため、誰にでも使いやすい施設となっています。

新庁舎の完成を機に職員同一層気持ちを引き締め、地域の森林・林業発展のため関係者と連携してまいりたいと考え

ております。近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



新庁舎全景



木製机（事務室）

鉄鋼スラグ現地検討会を開催

三陸中部森林管理署

三陸中部森林管理署管内の気仙郡田町の小股国有林で10月26日鉄鋼スラグを施工した林道の現地検討会を開催しました。

当署管内は、太平洋に面し、海上運送される鉄鋼スラグの輸送距離が短い点を活かし、数年前から鉄鋼スラグを使用した林道新設工事を行っています。

現地検討会では、鉄鋼スラグによる路盤工完成後の維持・管理費について、低コスト化の検証・確認を行うことを



現地検討会開会の様子

目的に、平成26年度に鉄鋼スラグを施工した遠端林道にて、今年度生産請負事業を行った事から、現在の路盤状況等を出席者に確認してもらいながら、意見交換を行いました。当日は天候に恵まれ、岩手県沿岸広域振興局をはじめ、各市町の林務担当者、調査設計会社、施工会社等の土木関係者約30名が出席しました。

開会にて三陸中部森林管理署長の菅野より、「造林事業や生産事業を効率的に行う上で、路網が整備されていることは必須であるとともに、林道の新設やその後の維持管理費についても低コスト化が求められております。本日はその対策として期待されている鉄鋼スラグを使用した林道の維持管理費について、従来の碎石を使用した林道との比較検証する形で、出席者の方々に検討をお願いする。」との挨拶の後に、担当者から、遠端林道の概要や鉄鋼スラグを施工した経緯等の説明と併せて、今年度実施した生産請負事業の概要説明を行いました。

その後、従来の碎石を使用した林道と鉄鋼スラグを使用した林道の維持・管理費の検証内容の説明を行いました。

検証方法は、従来の林道の維持管理に要する経費を試算する方法で行い、具体的には例年融雪後に流水が増加し、大量の流水により路面が洗掘されることから、その修繕費の実績を使用しました。（年度毎に気候等が異なり条件が変わることから過去3力年のkmあたりの平均値を使



意見交換の様子

出席者からは、「降雨は路面を流れるという点だが、側溝等の排水設備が見あたらない、水処理はどうしているのか。また、路肩決壊等の被害報告はないのか。」との質問が出され、所要所に横断工を設置し集中排水を行っていることや、他署での被害の事例も説明しました。

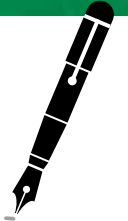
また、「路肩部分が弱いのであれば、路肩も含めた形で施工すればよいのではないか。」との質問に対しては、鉄鋼スラグの製造メーカーから「路肩部分の転圧が困難であることから路体と同じ強度を保てることは限らない。」との説明がありました。そのほかにも多数の質問・意見が出され、活発な意見交換ができました。最後に菅野署長から、「現時点の低コスト化は立証されたが、まだ施工して期間も短く、耐用年数等も含めて、今後も検証して参りたい。」とのまとめで現地検討会を終了しました。

用。）そのほかに林道の維持管理に不可欠な除草経費については、刈払機を使用した経費を比較対象として計算し、参考数値ではあるが年間に必要な維持管理費として約31万円が削減されたことを説明しました。



mini
column

オオシラビソ(大白檜曾)



森林技術・支援センター 森林技術専門官 増田 悠介

2月、東北を代表する冬の観光スポットといえば、樹氷(別名、スノーモンスター、アイスモンスター)ではないでしょうか。樹氷はオオシラビソ(アオモリトドマツ)などの常緑針葉樹に、0°以下でも凍らない過冷却水滴がぶつかって凍って成長してできます。今回は樹氷で有名なオオシラビソ(アオモリトドマツ)についてご紹介します。

オオシラビソ(大白檜曾)はマツ科モミ属に分類される常緑針葉樹で、日本のみの固有種です。別名、アオモリトドマツと呼ばれ、青森市の「市の木」に指定されています。分布は青森から福井や静岡までですが、東北地方に多く分布しています。葉は長さ1~2cmの線形で、花は6月頃に開花し、10月頃に紫藍色で5~10cmの楕円形の球果ができます。大きさは大きいものだと高さ40m、直径1mになるものがありますが、森林限界を超えると厳しい環境により、矮小化して低木になります。また、

他の針葉樹に比べ、積雪に強く、多雪地帯にも生育しています。

現在、八甲田山や八幡平はオオシラビソの純林に覆われていますが、植物化石などの研究によれば、この森林は比較的最近できたものであることがわかってきました。オオシラビソは約1万年前以降の間氷期に入り、多雪環境になり、小さな集団から分布を拡大し始め、八甲田山や八幡平を覆うようになったのは約3,000年前であると考えられています。

間氷期に入らなければ、多雪環境にならなかったため、現在のオオシラビソの純林が形成されることもなく、樹氷にも出会えなかったと考え、とても神秘的な感じがします。この冬はそんな神秘的なオオシラビソの樹氷を見に行ってみてはいかがでしょうか。



雪解けのオオシラビソ林



樹氷(八甲田山)



オオシラビソ林とドラゴンアイ(八幡平)



オオシラビソの球果と葉



八幡平から望むオオシラビソ林と岩手山



森林官からの手紙

初めての森林官

岩手南部森林管理署 千厩森林事務所 森林官 吉田 純一

私は去年の4月から岩手県一関市千厩町にある千厩森林事務所に勤務しています。皆さん、「千厩」という漢字読めますか？そう聞くと、たいいてい「せん：」や「せんうまや」、人によっては「せんきゅう！」という返事が返ってきます。正解は「せんまや」です。この難しい地名の由来は平安時代、奥州藤原氏がここに厩舎を建て、千頭の馬を飼育したことによると伝えられています。かの有名な源義経の愛馬「大夫黒（たゆうぐろ）」も千厩産で、「一ノ谷の戦い」で崖の上から急襲したことで知られる鶴越（ひよどりごえ）の逆落としの際に活躍したと言われています。*写真① そんな千厩



義経の愛馬「大夫黒」の看板

町ですが、内陸の一関市中心部と太平洋側の宮城県気仙沼市のちょうど中間地点にあり、四方を山に囲まれた人口1万人ほどの中山間地域です。県内では比較的雪が少なく温暖な気候と言われていますが、朝晩の冷え込みは厳しく、水道管が凍結することも度々あるので、あくまで

寒冷地の岩手県内では温暖ということを感じ、これからの冬を乗り切りたいと思っています。

森林事務所の管轄区域は旧千厩町、大東町、室根町等を含む一関市の東方約1,500haで、官行造林地も約520ha（署内で2番目に広い）を有しています。管内の一関市大東町には「東山松（とうざんまつ）」と呼ばれるアカマツの天然林があります。材質が良いことで知られる「南部アカマツ」のひとつで、樹高25mを超える大木も生育しており、「東山松特別母樹林」に指定し保護・管理されています。しかし、近年、松くい虫被害が岩手県内でも北上・拡大している中で、今後東山松を保護していくために、日頃



東山（とうざん）松

のパトロールを強化し被害状況を把握するとともに、現在実施可能な対策を行い、被害拡大の防止に努めたいと考えています。

*写真②

また、管内には室根山や館ヶ森アーケ牧場、岩手サファリパークなどの観光地があり、多くの観光客が訪れます。特に、館ヶ森アーケ牧場は国有林と隣接しており、羊やロバが草をはみながらのんびり



アーケ牧場の動物たち

の方は一度来てみてはいかががでしょうか。

さて、今回が私にとって初めての森林官勤務となります。森林官にあこがれ入りして早8年、ずっとデスクワークが続き正直あきらめかけていた矢先に森林官になることができました。事業の監督業務や各種調査、境界管理などで山を歩き回ることが多く、現場の最前線で働けることの喜びを感じています。一方、覚えることが多く多岐にわたるため、先輩方に教えてもらいながら、なんとか仕事をこなしている毎日です。来年度は自分の知識・経験不足を補うため、日々の情報収集を怠らず、できる限り現場を回りたいと思っています。100年単位で生きている樹木にとって、私に関わることができる期間はほんのわずかなものかもしれませんが、後世にこの素晴らしい森林を残していけるよう今できることを一杯やっつけていきたいと思っています。

過ごしている文字通りの牧歌的な景色を楽しみます。*写真③ 岩手サファリパークも近くにあるので動物好き



桃洞スギとネズコ



トウドウ沢「おう穴」



桃洞スギ上方



桃洞スギ成林状況

我が署の名所

国の天然記念物「桃洞スギ」

米代東部森林管理署上小阿仁支署管内
秋田県北秋田市

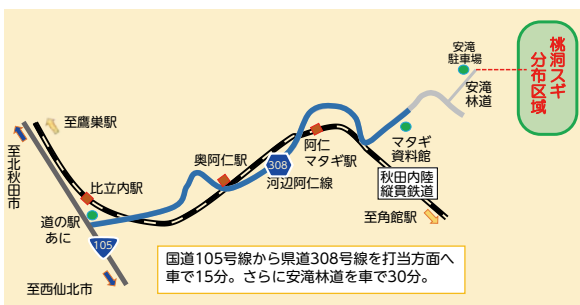
桃洞スギは、スギ天然林で森吉山の南東部約6キロ、海拔800〜950メートルに分布しています。面積は553haで、旧阿仁・米内沢管林署管内にまたがっています。

一般的に、天然秋田スギは海拔600メートル以下に分布しているのですが、海拔800メートル以上に存在する桃洞スギは、日本海側の山地帯上部の生態系として貴重であることから近在の佐渡スギとともに1975年「桃洞・佐渡のスギ原生林」として国の天然記念物に指定されています。

桃洞スギが生育する地域は、清流と渓床の「おう穴」が大小様々に見られ、桃洞スギ林と見事な景観を見せてくれます。

平成3年の台風19号により一部の区域において根返り等被害があり、その際、森林総合研究所東北支所が調査した推定樹齢は200〜265年の範囲にあることがわかりました。

現地までは、安滝駐車場から徒歩で往復約9キロの道のりとなりますが、熊対策を施し、精通しているガイド等の同行をお勧めします。



米代東部森林管理署上小阿仁支署

〒018-4401

秋田県北秋田郡上小阿仁村沖田面字野中376-13

TEL 0186-77-2422

FAX 0186-77-2426

